09-7-GYM-5

男子テニス選手におけるシングルスのゲーム分析について
○中村友香、菅 雄輝（大阪体育大学大学院）、今西 平、松原慶子、梅林 亜（大阪体育大学）

本研究は、男子テニス選手におけるレベル別（日本ジュニア、大学生、世界のジュニア、プロ選手）のゲーム分析を行い、特にサービスからの攻撃を中心にその特徴を把握し、戦術面においての知見を得ることを目的としたものである。

対象とした試合は 2006 年 AIG オープン、ワールドスーパージュニア、全日本ジュニア（12 歳以下、14 歳以下、18 歳以下）、関西学生選手権のそれぞれ準決勝、決勝をビデオカメラによって撮影し、power analysis を使用し分析を行った。分析の内容としては、サービスだけでなくパラグ、サービスとストローク 1 打で決まるパターン、サービスにストローク 1 打で決まるパターンのように、パターンの種類別にまとめた。パターン別での差が見られるか、年代別で差が見られるか、一元配置分散分析を行い、その後、Scheffe の多重比較検定で分析を行った。

分析結果から、プロ選手は、サービスだけでなくパラグが他の項目に比べて、有意な差が認められた。しかし、他の年代では、全て認められなかった。このことからサービスの攻撃の重要性が示唆された。

09-7-GYM-6

中年女性テニスプレーヤーにおけるトレーニングについて
- ウォーミングアップ時に導入する体力トレーニングの効果について-
○松原慶子、今西 平、梅林 亜（大阪体育大学）

これまでの研究において、中高年テニスプレーヤーを対象とした調査では、障害や痛みについてコンディショニングへの意識不足が捉えた。そこで本研究では、ウォーミングアップ時にトレーニングを導入し実施することによる影響を体力測定の結果から検証することにした。被験者は、日頃から継続的にテニスを行っている中年女性 8 名を対象に 10 項目のトレーニングを 3 ケ月間実施。その後の体力測定の結果から統計処理し検討した。

①対象群の年齢の特徴である項目間での有意な相関がみられた。②トレーニング前後では、体重の減少、体脂肪率の低下、握力の改善や上体起立の改善等有意な差がみられた。③アンケート調査では、「脚が揺らなくなった」「膝の痛みが緩和したように感じた。」等の意見が得られた。以上のことから、今回のウォーミングアップ時のトレーニングの導入においても効果が得られることが示唆されるとともに、今後中高年の指導現場においても効果的な運動となるよう検討していきたいと考える。

09-7-GYM-7

ジュニアテニス選手の体力に関する一考察
○梅林 亜（大阪体育大学）、佐藤浩治（学習院大学）、畠山雅史（大阪社会体育専門学校）
木内真弘（大阪電気通信大学）、小屋奈穂子（国立スポーツ科学センター）

テニスにおけるパフォーマンス発揮においては、技術的要素は勿論のこと、体力的要素も重要な部分を占める。特に発育発達期のジュニア選手にとっては、体力要素をどのように、またどの程度高めていくのかは、重要な課題である。本研究は、14 歳以下のジュニアテニス選手の体力を把握し、そしてそのトレーニングについての方向性を検討することを目的とする。

対象は、14 歳以下のジュニアテニス選手 62 名（男子 29 名、女性 33 名）を対象とした。測定項目としては、身長、体重、握力、垂直跳び、立ち幅跳び、立ち 3 段跳び、30m 走、T テスト、メディシンボール投げである。
体力測定結果については、男女とも筋力、パワーともに、少し低い傾向を示した。敏捷性を表す T テストについては、下肢パワー（立ち幅跳び）と関係が高いことより、下肢の筋パワーが、テニスの動きに大きな影響を与えることが示唆された。